

先進的あるいは特色ある教育課程	学校名等	課程
「カリキュラム・マネジメント」	茨城県立土浦第一高等学校	全日制普通科

ア 実施状況について

① 教育課程

(教育課程編成)

- ・本校は、創立120周年の伝統校である。各学年8クラス、計24クラスの学校である。
- ・本校では、平成26年度から5年間、文科省よりSGH研究指定を受けており、本年度で4年目となる。
- ・学校設定教科「国際」を設定し、科目「グローバル・キャリアデザイン」（1年生全員：2単位）と「グローバル・キャリアアドバンス」（2，3年生選択者：各1単位）を課している。
- ・本校SGHの目的は「生物資源を活かすビジネスを起業する課題研究で育むグローバル人財」の育成である。

(授業展開)

- ・筑波大学、筑波銀行と協定を結び、高・大・産の連携のもとで地域全体の活性化を目指す取組を行っている。
- ・「国内フィールドワーク（常時）」「海外フィールドワーク（8月）」を行い、地域から世界に発信できる課題研究に取り組んでいる。
- ・GBIC（Global Business Idea Contest）を行い、起業家精神に基づくアイデアコンテストを実施している。

② 教員の指導力向上

(教員研修)

- ・主に、SGH担当教員を中心に校内啓発に努めている。
- ・課題研究による探究的な学び方が、各教科の関連性を高め、教員の意識向上が図られている。

(外部人材の活用)

- ・筑波大学教授数名、筑波銀行等企業関係者数名が、適宜指導にあたっている。

③ 校内組織

- ・校務分掌の1つに「SGH推進室」を設け、推進を図る担当者がいる。
- ・学校の重要な取組として、学年や校務分掌の相互協力を得ている。企業訪問等に関しても、企業が抱えている問題についての質問や調査について、学年全体の協力を得ている。

④ 施設設備

- ・全教室にプロジェクター・スクリーンが整備されている。
- ・体育館には、大型のプロジェクター・スクリーン（同窓会寄贈）が設置されている。

⑤ 取組の成果の（都道府県）全体への普及・共有方法

- ・本県他校との共同企画（コラボPVプロジェクト）によって、対外的な連携を深めている。
- ・SGH甲子園等に出場し、全国的な普及・共有活動を行っている。
- ・ビジネスアイデアを商品化し、地域の産業祭等で出品し、高い評価を得ている。

⑥ その他

- ・海外フィールドワークでは、「マレーシア・シンガポール」「オーストラリア」の2方面に加え、新たに「アメリカ西海岸」を設定している。世界的に活躍している日本企業の米国支店（研究所）を訪れ、世界を相手にするグローバル・リーダーとしての資質を養う。

イ 今後の課題

- ・SGH研究指定が終了した後、同様の教育内容をどのように展開していくかが最大の課題である。
- ・学校設定教科「国際」を中心に、各教科間の有機的な繋がりをさらに深め、探究的な学びの体系を構築していく必要がある。
- ・協定を結んでいる筑波大学、筑波銀行とのより効果的な連携活動が必要である。